



介護士として活躍することを夢見て

〈写真・菊地信夫〉

「一緒に歌を歌いましょう！」優しく利用者の方の手を取る、インドネシア出身のソンティさん（左）とルコヤーさん（右）。

日・インドネシア経済連携協定により、2年前に介護福祉士候補生として来日した。（福）中心会 えびな南高齢者施設（海老名市）で働きながら、介護福祉士国家試験合格を目指し勉強に励む。

日本での慣れない生活や仕事に戸惑うことはあるが、「利用者さんが何でも優しく教えてくれるので仕事が楽しい」とルコヤーさん。たくさんの日本語を覚えて相手の心にもっと近付きたいと意欲を燃やす。ソンティさんは「利用者さんにありがとう助かりましたと、言葉をかけてもらえることが一番うれしい。もっと頑張ろうという気持ちになります」と介護の仕事の魅力を話す。そんな二人の利用者との関わり方は、他の職員もいろいろ見習うことが多いとのことで、良い関係が生まれている。

もっと技術を学び一生懸命働いて、どこの国でも通用する介護士になりたいと話すお二人。夢に向かって着実に歩む姿がまぶしかった。

CONTENTS

特集

平成21年度県社協事業報告・決算 …… 2

NEWS & TOPICS

平成21年度共同募金・配分結果報告ほか …… 4

FOCUS「利用者本位を地域で支える」 …… 5

でかけてみませんか …… 6

連載

社会的ケアの広がり～個人と家族を支える～第3回～ …… 8

県社協のひろば

福祉のしごとフェア2010案内ほか …… 10

かながわHOT情報

ともしびショップ「ネットサロンKILC」（平塚市） …… 12

新たな福祉課題を見据えた地域福祉の着実な推進

～平成21年度県社協事業報告・決算～

平成21年度は、「神奈川県社会福祉協議会活動推進計画」の中間見直しの結果に基づき、目標達成に向け、計画事業の着実な進展を図りました。

昨今の経済・社会情勢の急速な変化により、格差問題や貧困問題など新たな福祉課題が増える中、福祉人材の確保・定着等の喫緊の課題への対応をはじめ、福祉サービスの質の向上や県民の福祉意識の啓発、住民相互の支え合いによる、地域福祉活動を広げるための人材づくりや機会づくりに取り組みました。主な取り組みの概要を報告します。

だれもが参加でき、ともに 支え合う機会づくり

■障害者の就労の場の確保による自立と社会参加の推進と、ともに運動の普及啓発の拠点である、「ともにしびショップ」における地域交流を推進するため、多機能型ともしびショップモデル事業「ともしびショップ交流サロン」の設置を促進し、箱根町・横須賀市・平塚市の新規実施を含む、県内五カ所で事業展開しました。

■福祉意識の醸成や、ボランティアなど多様な主体が行う活動の活性化を進めるため、ともしび運動「新行動指針」に基づき、市町村域におけるともしび運動の推進や担い手の中核となる、「市町村ともしび運動推進組織」が行う取り組みに対して支援を行いました。

生活圏域を基盤とする地域 福祉の推進

■日常生活圏域におけるさまざまな生活課題の解決に向け、市町村行政や市町村社協が、地域福祉を進めるための方策や課題を共有で

きるよう、連絡会やフォーラムを開催しました。

■地域福祉推進におけるキーパーソンとしての人材の育成に向け、秦野市・三浦市・座間市・小田原市社協と協働して、ネットワーク構築に向け取り組んだほか、地域福祉コーディネーター活動の活性化や地域定着を推進するため、スパーバイザーを配置し、相談等を実施しました。

■市町村社協の組織・運営基盤の強化、市町村行政等へのプレゼンテーション活動に向けた取り組みへの支援を行ったほか、研修会、会議等を通じた役職員の専門性の向上、主体的な協議・研究等に向けた支援を行いました。

■福祉機関・団体、福祉施設等との連携・協働においては、社会福祉法人の地域福祉における福祉推進の主導的役割と、経営改革を果したための取り組みを行ったほか、若年層が持つ介護と介護就労の意識調査や、福祉施設の不祥事案件を受けた再発防止の取り組みを県との協働により行いました。

■福祉サービスの質の向上を図るため、福祉サービス利用者意向調査キットの活用促進や、次世代経営者の育成を目的とした研修会等を開催しました。また、障害者グループホーム・ケアホームにおける自己評価の進め方や、改善への取り組みなどを手引きとしてまとめました。

■民生委員児童委員の支援については、新任民生委員児童委員に向けた研修のほか、援助を拒否する家庭への関わり方など、個別支援を行う際に必要なテーマを取り上げた研修会を開催しました。

■更生保護や青少年の非行防止などの保護司活動への協力を行うほか、今日の児童・青少年が抱える課題や地域での青少年の健全育成活動のあり方を協議するため、保護司や民生委員児童委員、主任児童委員、地域関係者の参加により、青少年問題を考える集いを開催し意見交換を行いました。

安心して生活できるための サービスの確保

■権利擁護の取り組みでは、県域の二次相談機関として適切に役割

が果たせるよう、専門相談を実施したほか、市町村域における相談機関同士が、福祉サービス利用者の権利を擁護する視点で連携できるよう支援しました。また、日常生活自立支援事業については、事業を分かりやすく、正しく理解してもらうためのDVDを作成し、関係機関・団体に配布しました。

■福祉人材の育成に向けては、福祉従事者の育成研修を中心に、現場における職員定着に視点をおいた各種研修事業を実施するとともに、法人・施設内の現任者研修が活発に実施できるよう、職場内研修担当者研修を実施しました。

■福祉人材確保の厳しい現状を少しでも改善するため、就職相談会の実施に加え、これまで福祉・介護の仕事に関心がなかった層を中心とした求職者に、福祉の仕事の理解や魅力を分かりやすく伝えるための懇談会や、職場体験事業を実施しました。

■生活福祉資金貸付事業では、厳しい雇用経済情勢等を受け、制度が抜本的に見直され創設された、総合支援資金・福祉資金（緊急小口

神奈川県福祉協会の経営体制及び財政基盤の強化

■活動推進計画の着実な遂行を図るため、四つの重点項目に対応する推進委員会を開催しました。

■事業等の進捗管理の徹底、効果的な展開を図るため、事業評価システムを導入し、平成二十年度の六十四事業について自己評価を行うとともに、重点事業については、外部評価委員会による外部評価を行いました。

（企画調整・情報提供担当）

平成21年度社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会収支計算書

自平成21年4月1日 至平成22年3月31日（単位：円）

会計区分	収入合計額	支出合計額	差引残額
一般会計	9,919,828,961	9,043,065,625	876,763,336
公益事業特別会計	1,693,127,498	1,585,236,433	107,891,065
収益事業特別会計（事業収支）	47,902,417	27,937,057	19,965,360
生活福祉資金特別会計	3,696,630,003	736,601,663	2,960,028,340
県単生活福祉資金特別会計	10,198,298	8,956,927	1,241,371
生活福祉資金貸付事務費特別会計	200,152,802	139,373,066	60,779,736
離職者支援資金特別会計	6,519,178,306	6,519,178,306	0
要保護世帯向け長期生活支援資金特別会計	11,285,058	6,830,058	4,455,000
臨時特例つなぎ資金特別会計	177,911,004	57,985,505	119,925,499
合 計	22,276,214,347	18,125,164,640	4,151,049,707

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会総合貸借対照表

（一般・公益・収益会計） 平成22年3月31日現在（単位：円）

資産の部		負債の部	
流動資産	1,095,100,088	流動負債	129,262,934
現金	168,063	未払金	70,527,476
預貯金	1,054,625,989	預り金	19,542,158
未収金	39,370,506	前受金	629,300
前払金	813,058	賞与引当金	38,564,000
貯蔵品	122,472	固定負債	6,163,550,787
固定資産	10,338,201,669	長期借入金	5,883,607,000
基本財産	2,125,290	退職給付引当金	276,837,787
他固定資産	10,336,076,379	子ども福祉基金引当金	1,200,000
		長期預り金	1,906,000
		基本金	2,125,290
		基金	2,125,290
		ともしび基金	2,623,860,617
		民間社会福祉事業従事者福利厚生基金	2,255,590,499
		萬谷児童福祉基金	100,000,000
		国庫補助金等特別積立金	268,270,118
		他の積立金	10,731,613
		次期繰越活動収支差額	2,484,774,252
資産合計	11,433,301,757	負債・純資産合計	18,996,264

（生活福祉資金関連6会計総合貸借対照表） 平成22年3月31日現在（単位：円）

資産の部		負債の部	
流動資産	9,571,853,575	流動負債	15,809,405
預金	9,557,624,162	未払金	13,669,169
未収金	14,229,413	預り金	776,806
前払費用	0	仮受金	1,363,430
固定資産	4,528,842,280	固定負債	13,930,225,679
運用財産	4,523,316,664	交付金	14,172,798,382
他固定資産	5,525,616	県単修学資金免除金	△242,358,870
		△県単交付金	△213,833
		基本金	4,508,647,321
		運用財産基金	4,508,647,321
		積立金	△13,907,608,459
		繰越金	9,553,621,909
資産合計	14,100,695,855	負債・純資産合計	14,100,695,855

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会財産目録

平成22年3月31日現在（単位：円）

資産の部		負債の部	
流動資産	10,666,953,663	前受金	629,300
現金	168,063	賞与引当金	38,564,000
預貯金	10,612,250,151	固定負債	20,093,776,466
前払金	813,058	生活福祉資金交付金	6,817,494,388
未収金	53,599,919	県単生活福祉資金交付金	353,103,994
貯蔵品	122,472	離職者支援資金交付金	6,900,000,000
固定資産	14,867,043,949	県単修学資金免除金	△242,358,870
基本財産	2,125,290	△県単交付金	△213,833
他固定資産	14,864,918,659	臨時特例つなぎ資金交付金	102,200,000
資産合計	25,533,997,612	銀行借入金	5,883,607,000
負債の部		退職給付引当金	276,837,787
流動負債	145,072,339	子ども福祉基金引当金	1,200,000
仮受金	1,363,430	長期預り金	1,906,000
未払金	84,196,645	負債合計	20,238,848,805
預り金	20,318,964	差引純資産	5,295,148,807

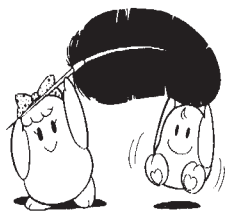
平成二十一年度共同募金・配分結果の報告

平成二十一年十月から三カ月間にわたり実施した共同募金運動には、皆さまの協力により、十一億九千七百万円を超えるご支援をいただきました。

平成二十一年度は、県内六百九十五件の福祉施設・団体から配分申請が寄せられ、本会「配分委員会」で、公正な配分を実施するため、申請施設の現地調査を行なうなど、慎重に配分案の策定作業を行ないました。

配分委員会で策定された配分案は、さらに、平成二十二年三月に開催した本会「理事会」「評議員会」で最終審査が行われ、下記のとおり共同募金の使途が決定したことをご報告いたします。

共同募金運動にいろいろなお立場でご協力を賜りました皆さまに、厚く御礼申し上げますとともに、本会の事業に引き続きご支援くださいますようお願いいたします。



平成21年度共同募金・使途概要

▽地域福祉を推進する市区町村社会福祉協議会の活動を支援するために（58団体）	329,135,919円
▽法定社会福祉施設を利用する児童・障害者・高齢者を支援するために（124施設）	141,600,112円
▽障害者地域作業所・生活ホームで自立就労訓練を行なう障害者を支援するために（136施設）	72,439,066円
▽青少年・障害者・高齢者・難病当事者・女性保護団体等の活動を支援するために（84団体）	74,760,093円
▽在宅福祉サービスを推進する非営利型福祉団体の活動を支援するために（234団体）	48,500,000円
▽年末たすけあいとして募集し、市区町村ごとの援護事業を実施するために（54団体）	406,402,248円
▽大規模災害時における被災者支援のための緊急配分資金として	24,068,000円
▽市区町村ごとに共同募金運動を展開するための募金資材の作成等に	58,010,000円
▽全戸配布資料の作成や小中学生福祉作文コンクールの開催事業等に	81,622,000円
合 計（690件）	1,236,537,438円

※上記使途財源には、前年度繰越金等を含みます。

一般会計各経理区分収支一覧表

自：平成21年4月1日～至：平成22年3月31日

（単位：円）

内 訳	経理区分名	本部	寄付金	たすけあい福祉資金	受配者指定寄付金	合計
1 収入総額		142,068,057	1,244,352,705	2,405,678	355,840,842	1,744,667,282
2 支出総額		138,187,719	1,237,351,330	8,705,000	350,659,625	1,734,903,674
3 当期繰越活動収支差額（1－2）		3,880,338	7,001,375	△6,299,322	5,181,217	9,763,608
4 前期繰越活動収支差額		18,203,461	147,666,529	11,986,616	9,023,143	186,879,749
5 積立金積立額		3,112,000	0	0	0	3,112,000
6 純資産評価減等による収支差額調整額		△1,303,435	0	0	0	△1,303,435
7 次期繰越活動収支差額（3＋4－5）		17,668,364	154,667,904	5,687,294	14,204,360	192,227,922

貸借対照表（平成22年3月31日現在）

（単位：円）

資産の部				負債及び純資産の部			
科目	平成20年度	平成21年度	増減	科目	平成20年度	平成21年度	増減
流動資産	1,317,163,974	1,127,536,733	△189,627,241	流動負債	1,133,222,124	932,197,482	△201,024,642
預貯金	1,176,478,626	987,105,115	△189,373,511	未払配分金	913,677,496	841,892,000	△71,785,496
有価証券	0	5,000	5,000	未払金	153,668,247	22,439,411	△131,228,836
次年度運動積立預金	139,780,000	139,632,000	△148,000	開拓啓発事業資金	14,570,100	13,270,100	△1,300,000
未収金	905,348	794,618	△110,730	災害準備金	50,702,000	54,068,000	3,366,000
固定資産	454,755,649	454,275,126	△480,523	預り金	604,281	527,971	△76,310
基本財産	9,300,000	9,300,000	0	固定負債	24,173,750	26,630,455	2,456,705
基本財産特定預金	9,300,000	9,300,000	0	退職給与引当金	24,173,750	26,630,455	2,456,705
その他の固定資産	445,455,649	444,975,126	△480,523	負債の部合計	1,157,395,874	958,827,937	△198,567,937
退職給与積立預金	24,173,750	24,173,750	0	基本金	9,300,000	9,300,000	0
運営費積立預金	32,000,000	32,000,000	0	基本金	9,300,000	9,300,000	0
支会経費積立預金	1,344,000	1,456,000	112,000	その他の積立金	418,344,000	421,456,000	3,112,000
たすけあい福祉資金積立預金	285,000,000	185,000,000	△100,000,000	運営費積立金	32,000,000	35,000,000	3,000,000
投資有価証券	99,950,000	199,769,000	99,819,000	支会経費積立金	1,344,000	1,456,000	112,000
車両運搬具	2,347,230	2,347,230	0	たすけあい福祉資金積立金	385,000,000	385,000,000	0
備品	5,058,580	3,917,265	△1,141,315	次期繰越活動収支差額	186,879,749	192,227,922	5,348,173
減価償却累計額	△6,417,911	△5,688,119	729,792	純資産の部合計	614,523,749	622,983,922	8,460,173
職員厚生会貸付金	2,000,000	2,000,000	0	負債及び純資産の部合計	1,771,919,623	1,581,811,859	△190,107,764
資産の部合計	1,771,919,623	1,581,811,859	△190,107,764				

本会・定款第三十八条の規定にもとづき、平成二十一年度収支決算内容を、次のとおり公告いたします。

神奈川県共同募金会平成二十一年度決算の報告

利用者としてではなく生活者として、 地域との関係や生活の彩りをサポート

今号は、障害のある方の暮らしへのサポートや地域への関わりについて、「小田原市障害者サポートセンター」の取り組みから考えます。所長の毛利佳子さんにお話を伺いました。

生活者として考えることの大切さ

小田原市障害者サポートセンターは、(N)小田原市障害者福祉協議会が、小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町の委託事業により、地域で暮らしやすい生活ができるよう、障害のある方やその家族の相談などさまざまな支援を展開しています。

具体的には、ホームヘルパーやデイサービスなど福祉サービスの利用に関する情報提供など、生活の自立に向けた支援を行う一方で、「携帯電話講座」「パソコン講座」などの生活に密着した講座や、「お化粧講座」「ヨガ交流会」など、

暮らしに彩りをもたらし講座も実施してきました。

障害のある方の地域での生活を考える場合、どうしても福祉サービスの利用者としてのみの、固定的なイメージを持ってしまいがちですが、こうした講座からは、地域で自分らしく暮らすための要素は、単に福祉サービスだけではないことを改めて気付かされます。

地域と関わる機会を作る

「災害が起きた時にどうせ助からない」という声があったため、当事者自身が障害について発信し、地域の住民に理解してもらおうと民生委員児童委員や自治会、高校生などを招いた「防災交流会」を行いました。災害時に障害のある方が困る事を体験してもらったほか、当事者自らが説明を行うことで、地域住民として交流できる機会となるよう意識しました。さ

らに、聴覚障害のある方と視覚障害のある方がペアになり、コミュニケーションを取るようなワークショップも実施しました。これは、お互いの障害について理解し合い、何かあった時には、支え手にもなれることを実感してもらおうという意図からです。この防災交流会をきっかけに、当事者自身が「防災キャラバン隊」を結成するなど、地域住民への発信者となることにつながりました。

毛利さんは、「障害のある方々が高齢化し、外出が大変になっていくこともあり、センターに相談に来ることが難しい場合もあります。また、生活での困り事や不便な事が起きたとしても、誰の助けも借りたくないという方もいるのでは」と語ります。

地域との関わりを増やす交流会や生活に彩りを得られる講座をきっかけに、相談への橋渡しをしてくれる方を増やしたり、相談に対する抵抗感を減らしていく。こうした地道な取り組みが、本人本位の暮らしの支援に、一歩ずつつながっていくのではないのでしょうか。

(企画調整・情報提供担当)

一般家庭から大型ビルまで
最新のエレクトロ技術により
安心と安全を提供します。



京浜警備保障株式会社

代表取締役社長 岡本 誠一郎

本社 〒221-0056 横浜市神奈川区金港町5番地10 金港ビル4F内
☎(045)461-0101 代表 FAX(045)441-1527

神奈川県福祉研究会

(税務・会計の専門家グループ)

理事 伊藤 正孝(☎045-412-2110)
同 桑江 郁男(☎045-402-4433)
同 辻村 祥造(☎045-311-5162)
同 西迫 一郎(☎046-221-1328)
同 林 雄一郎(☎0466-26-3351)
代表理事 八木 時雄(☎042-773-9266)

あなたの情報発信のおてつだい
デザイン・印刷・ホームページ制作



きかんし印刷
株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒238-0004 横浜市金沢区福浦 2-1-12
営業部 TEL045(785)1700(代) FAX045(784)8902
制作部 TEL045(785)1766 FAX045(780)1598
http://www.kki.co.jp/

小田急線座間駅・相武台前駅から 県立座間谷戸山公園へ散歩に行こう！

しとしとと降る雨が木々の緑を色濃くする梅雨の季節。雲間から久しぶりに太陽が顔を出し、爽やかな風が吹き始めたら、たまった洗濯物を大急ぎで片付けて、親子で散歩にでかけてみませんか。きっと気分もすっきりと晴れ渡るはずですよ。今回は「県立座間谷戸山公園」をご紹介します。

公園へのアクセスは快適

座間谷戸山公園は座間駅から西入口まで徒歩約10分、相武台前駅から東入口まで徒歩約15分。どちらの駅もエレベーターが完備され、改札内のトイレにオムツ替え用ベビーシートが設置されています。公園までの道のりはともに平坦で、ベビーカーでも安心です。

里山の自然に親子で夢中！

約30ヘクタールの園内は雑木林、ため池、湿地、原っぱ、田んぼなどで構成。里山の風情を残す自然環境が大切に守られ、「自然生態観察公園」として多くの生き物が生息しています。

駅から10～15分とは思えないほど豊かな自然の中を散歩しながら、「観察林」ではクヌギやコナラなどの樹木を、「水鳥の池」ではカワセミやアオサギなどの野鳥を、「わきみずの谷」では水辺にすむ動植物を観察することができます。子どもたちの目が生き生きと輝いてくるのが分かるでしょう。定期的に「自然観察会」「ネイチャーゲーム」などの行事も行われ、参加すると自然がもっと好きになります。

園内に伸びる未舗装路はベビーカーでも移動可。ただ、階段など困難な箇所もあるので東入口の「パークセンター」、西入口の「里山体験館」で手に入る園内バリアフリーマップを参考に。オムツ替えシー



観察林にはそれぞれの特徴が見られ、野鳥の姿も。里山体験館では双眼鏡を無料で貸し出ししています

今月は ⇒ NPO法人
ままとんきっず がお伝えします！

1993年、子育て中のおかあさんが集まり、子育てタウン情報誌「ままとんきっず」を発行。子育てに関するメール相談、親子が集うサロン運営、各種講座の開催など、子育て支援活動を展開。2008年には「第2回かながわ子ども・子育て支援大賞」を受賞。情報誌・単行本の発行物は30冊を数え、一部は海外でも翻訳出版。「ままとんサロン」では第1・3金曜に「ままとんカフェ」をオープン。手作りのランチが大好評。

〈連絡先〉川崎市多摩区菅田堤3-5-43
TEL/FAX：044-945-8662

トは東入口、北入口、「多目的広場」のトイレに設置。飲み物の自動販売機はありますが、飲食店や売店はないので、お弁当などは用意していきましょう。

ホタルが放つ幻想的な光に感動

6月中旬～7月上旬、「水鳥の池」「湿生生態園」「田んぼ」のそばを流れる水路では、ゲンジボタルが飛び交います。昔からこの地に生息するホタルで、「座間のホタルを守る会」の保全活動によって出現数が年々増加中。ホタルを捕まえて持ち帰らない、懐中電灯をつけないなどのマナーを守ると共に、その理由も子どもと一緒に考えながら観賞しましょう。出現場所へは西入口が便利です。



カエルの鳴き声が響く湿生生態園。奥に見える里山体験館では竹馬や輪投げなどの昔遊びが体験できます

インフォメーション

■県立座間谷戸山公園管理事務所

座間市入谷3丁目

電話 046-257-8388

※行事は主に土・日曜に開催。自然観察会やネイチャーゲームは誰でも参加可、申込不要。

詳しくは下記URL参照

<http://www.zamayatoyama.kanagawa-park.or.jp/>

◆ご意見・ご感想はkikaku@knsyk.jpまでお寄せください。

資料



私のおすすめの1冊

「リーダーになる人に知っておいてほしいこと」

神奈川県ボランティア
連絡協議会
会長 府川 セツ

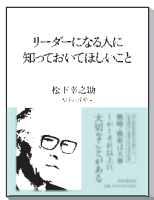
松下幸之助述
松下政経塾編

神奈川県女性会議参加が縁で環境問題に取り組み、県・市の地域福祉推進政策に基づくモデル地区の一つとして、昭和61年に「明治地区地域福祉推進委員会」を立ち上げ、仲間のご協力をいただきながら活動を続けています。

新しい活動では「前例がない、時期尚早」など批判も受けましたが、現状を見つめ、使命感を持って決断し、初志を貫いてきました。

実業家の体験に基づく「知恵」の結晶としての本書を「目から鱗が落ちる」思いで読み、新たな任務をお引き受けする勇気と気力をいただきました。

リーダーとしてご活躍される方々にご紹介したい一冊です。



2009年3月刊
定価1,000円（税込）
PHP研究所

- ★平成21年度「青少年問題を考える集い」報告書「貧困が及ぼす子どもの育ちへの影響」地域にできること、地域でみつめること（本会保護司部会）
- ★インフォーマルサービスを含むケアプランによる自立支援の効果及び提供有無の確認等の調査研究事業報告書（日本介護支援専門員協会）
- ★コミュニケーション・サポートブック「確かな伝えあいを求めて」（精神発達障害指導教育協会）
- ★訪問介護計画のつくり方・サービス提供責任者の仕事（東京都福祉保健財団）
- ★地域における障害者の栄養・健康状態の実態及び意識・ニーズ調査研究事業報告書（日本栄養士会 全国

※蔵書検索も利用可だよー
<http://www.knsy.k.jp/tosyo/>

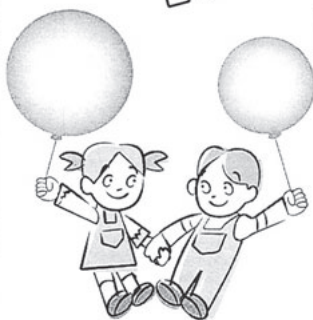
- 福祉栄養士協議会）
- ★精神保健研究所年報 No.22 2009（国立精神・神経センター精神保健研究所）
- ★神奈川県療育 第33号（神奈川県重症心身障害児者協議会）
- ★ちきゅうのなまこ（平成22年度版）
- ★みんなの福祉読本（長崎県）
- ★横浜市発達障害者支援開発事業事業報告書（横浜市発達障害者支援開発事業「企画・推進委員会」）
- ★小地域福祉活動事例集VOL.4（滋賀県社会福祉協議会）
- ★第32回総合リハビリテーション研究大会「総合リハビリテーションの30年とこれからの展望（日本障害者リハビリテーション協会）」

安心を支えます

ボランティア活動保険

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

<http://www.fukushihoken.co.jp>



特長

- 活動場所と自宅との往復途上の事故も補償
- 熱中症（日射病・熱射病）による障害も補償
- ボランティア自身の食中毒や特定感染症も補償
- 地震など天災によるケガも補償（天災タイプご加入の場合）

ボランティア行事用保険

地域福祉活動の一環として行うボランティア活動に関する各種行事におけるケガや賠償責任を補償！

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネージャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償！

送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償！

年間保険料 | Aプラン...280円 Bプラン...420円 天災タイプもあります

※各プランの補償金額、補償内容などの詳細は、専用のパンフレットをご用意しておりますので、取扱代理店にお問合せください。

お申込み、お問合せはあなたの地域の社会福祉協議会へ

社会福祉法人
全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店 ▶ 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763

〈引受幹事保険会社〉日本興亜損害保険株式会社

身近な場所で、顔の見える関係をつくる

介護ボランティアグループ「すずの会」(川崎市宮前区)

介護保険制度が始まってから十年が経過し、介護サービスは一定の広がりを見せています。こうした広がりの中で、高齢夫婦のみの世帯での介護や認知症の方の介護、仕事を辞めてする親の介護などにより、徐々に地域社会から孤立してしまう方の問題がクローズアップされてきています。

今回は、高齢者が集うミニデイサービス(※)などを行う「介護ボランティアグループすずの会」(以下、「すずの会」)の取り組みを取材し、孤立しがちな高齢者やその家族を支えるための、身近な地域の中にある「居場所」の持つ意味を考えてみます。

孤立しがちな高齢者とその家族

内閣府が全国の六十歳以上の男女五千人を対象に行った「高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査」(二〇一〇年)によると、孤独死(誰にも看取られることなく、亡くなったあとに発見される死)を身近に感じると回答した人は四二・九%、大都市・中都市ほど高く、単身世帯では約三分の二にあたる六四・七%になります。

「暮らしの中で地域のつながりは必要だと思う」人は九三・六%ですが、「親しく付き合っている」「立ち話をする程度」を併せても六九%で、「付き合いがほとんど

ない」人が五・九%、「あいさつをする程度」の人が二四・九%。

親しく付き合っている方がいる割合が高くなるのは七十代までで、八十代では「付き合いがほとんどない」人が一二%と、最も高くなっています。

国の統計では、平成二十七年には総人口の四人に一人が高齢者になると言われ、県の「かながわ高齢者福祉計画」でも、本県内の高齢者人口は、平成二十六年度には総人口の二三・二%まで達し、高齢者のいる世帯も増加し、平成二十七年度には高齢者の約一七%が一人暮らしになると見込まれています。

誰かと話せる安心感を求めて

すずの会は、宮前区野川にある老人いこいの家を拠点に、月二回ミニデイサービス(以下、ミニデイ)を実施しています。四十代から九十代まで、ボランティアも含めて毎回七十名前後が集まり、お



昼食後の団らん。ボランティアと参加者も一緒になって、普段の世間話で盛り上がる

しゃべりをしたり食事をしたりと自由に過ごします。介護保険事業によるデイサービスのように、サービスの提供者と利用者という明確な区分がなく、「お互い様」という緩やかな関係を保ちながら運営されています。

参加者から話を伺うと、「PTA活動をしていた時には地域との関わりを持っていたけれど、子どもが卒業してからは、私自身も地域と離れてしまい、関わりが薄くなっていました。夫も亡くなり、これに参加することがなかったらとても寂しく過ごしていた」という方や、「息子と二人で暮らしているけれど、昼間は一人きり。それでも生活できるけど、ここに来ることが楽しい」など、年を重ねるにつれ、人とのつながりが薄くなりがちな時期があることや、新たな知り合いをつくる難しさが浮かび上がってきます。

つながりをつくる場所

すずの会のミニデイは、「次第に顔の分かる人が増えて、近所で知っている人の顔を見るだけでも

地域のチカラ

横浜保護観察所
所長 板谷 充



裁判員制度が始まって1年の間に444件の有罪判決が言い渡され、刑の執行が猶予された80人の55%に当たる44人に「保護観察」が付されました。保護観察とは、犯罪や非行をした人を地域社会で生活させながら、再び犯罪・非行をすることのないよう指導監督し、援助するなどして、その立ち直りを支える仕組みです。裁判員の多くが量刑に当たって、被告人の更生に強い関心を持っているとの分析もあり、保護観察に大きな関心が寄せられています。

保護観察所は、保護観察や刑務所等で、刑を務めている人の出所後の準備をする「生活環境の調整」などの「更生保護」の仕事を、民間篤志家である「保護司」と共に行っていますが、近年、受刑者の高齢化が大幅に進み、薬物依存や心身の障害など、社会生活上ハンデのある人たちが多くなり、保護観察所と保護司だけでは、こうした人の住居や仕事を確保することが非常に困難になってきました。

刑務所に収容された人々も、いずれは地域社会に戻って生活しなければなりません。彼らが孤立したり排除されたりせず、地域との絆を保ち続けられれば、多くの人が再び犯罪に陥ることなく地域社会の一員として社会の支えになれるものと考えられます。

本年、第60回を迎える“社会を明るくする運動”は、その副題として「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」を掲げました。どうか地域住民一人ひとりのチカラを、明るい社会建設のためお貸しいただけますようお願いします。

安心」と、新しい知り合いができるきっかけとなっています。三年ほど前からボランティアとして関わる方は、介護保険のデイサービスセンターに通うご主人と一緒に参加しています。「地域に夫を知る人が増え、デイサービス



初参加のお二人を紹介する代表の鈴木さん（左）。意外と知らない「近所さん」を知る機会になる

がない日でも何かあったら、すぐに駆けつけてくれる人も見つかりました。『自分一人で支えなければ』という不安感から開放された。遠方に住む子どもたちには頼みにくいこともありますから」と語ります。

代表の鈴木恵子さんは、「ミニデイの時間は、あくまでもお互いの顔を定期的に見せ合う場です。そこから生まれた交流が、日常生活の中で顔なじみの関係となるよう、丁寧に関わっていくことができます」と話します。

ミニデイが、身近な地域に住む住民同士の顔合わせの場となって

いるだけでなく、「見守り合う」関わり方につながるよう意識していることがうかがえます。

介護サービスの充実により、生活への安心感は高まりますが、サービスの提供者と利用者という関わりだけでなく、一人の人間として馴染みある人たちに囲まれて過ごす空間があることによって、高齢者もその家族も、生活に活力やうるおいが生まれてくるのではないのでしょうか。

すずの会だけでなく、一人暮らし高齢者への見守り活動やミニデイ、「ふれあいいきいきサロン」

（※）など居場所づくりの活動は、全国的にも広がっています。こうした場所があることだけでも意義深いのですが、そこで人と人がつながることの大切さを、再度、意識していく取り組みが期待されます。

（企画調整・情報提供担当）

※ミニデイサービス

介護保険制度の通所介護（デイサービス）を利用するほどではないが、健康面で不安のある方や、日中独居の方の交流の場として、ボランティア、民生委員児童委員、自治会など地域の人たちが中心になり、公民館などの身近な場所で開催されるもの。「ふれあいいきいきサロン」も同様の居場所で、両者に厳密な区別はないが、ミニリハビリ的な要素が入ったものをミニデイサービスという場合が多い。

福祉のしごとフェア2010 ―今夏は茅ヶ崎市で開催―

福祉人材センターでは窓口での職業紹介、就労相談のほかに、県内各地で「福祉のしごとフェア」を毎年行っています。

今年度第一回目は、七月二十日に茅ヶ崎市総合体育館（JR「茅ヶ崎」駅北口より徒歩約七分）で開催します（共催：茅ヶ崎市、茅ヶ崎市社協ほか）。

「就職支援ガイダンス」（九時三十分～十一時三十分）では、「いま、福祉施設で求められる人材（魅力ある仕事について）」、「就職活動のポイント」など、福祉の仕事を指している（これから目指す）方に参考になるプログラムです。



学生、転職者、また、子育てや介護を理由に一度退職した方など、どなたでも参加ができます

しごとフェア開催予定

【第2回】

平成22年9月3日（金）
会場：横浜文化体育館

【第3回】

平成23年2月9日（水）
会場：大和市保健福祉センター

フェアの詳細について、また、他の県内就職相談会情報は本会ホームページに掲載しています。

（福祉人材無料職業紹介担当）

「就職相談会」（十三時～十六時三十分 ※入場は十六時まで）では、県内で社会福祉事業を行う法人・事業所がブースを設け、具体的な仕事の内容や役割、実際の雇用条件や働く環境がどのようになっているのかなど、求職者のさまざまな疑問に直接答えます。

来場者には、当日の求人票（冊子）を差しあげます。冊子を見ながら、自由にブースをお回りください（入退場自由、履歴書不要、服装自由、事前申込不要）。

また、県社会福祉士会によるソーシャルワーカーデー企画シンポジウム「相談専門職の仕事／社会福祉士の活動から」も、同会場で開催します。皆さまのご来場をお待ちしています。

監査意見書公告

本会定款第34条第2項の規定により、平成21年度事業・決算に関する監事監査意見書を次のとおり掲載いたします。

監 査 意 見 書

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会における平成21年度の業務の執行状況並びに財務の状況について、定款第13条の規定に基づき監査したところ、業務は概ね適正に実施されているが、次の事項について対応、改善を図るようお願いしたい。

また、決算書類は、神奈川県社会福祉協議会の財産及び収支を適正に表示しているものと認める。

1 事業・組織運営について

国において様々な制度改革等が進む中、少子高齢化の進展や地域の連帯感の希薄化などに伴い、福祉を取り巻く環境は大きく変化しているほか、福祉現場における人材不足が深刻化するなど、当協議会が取り組むべき課題は一段と厳しさを増している。こうした中、福祉人材の確保や経済の悪化に伴う国の各種施策・事業等に、積極的に取り組んだことを高く評価したい。

しかしながら、県の行財政改革に伴う補助のあり方の見直しが進められている状況を踏まえると、例えば、研修事業のような県社協の本来業務であり、専門性を発揮できる事業分野の充実強化を図り、自主財源を確保する一方で、平成21年度から実施した外部評価制度の結果を踏まえて、次期活動推進計画の策定を見据え、事業の縮小・廃止や見直し、受益者負担の導入を大胆に行い、一層のスリム化・重点化を図るなど、経営基盤の充実・強化に努めていただきたい。

さらには、多様化する県民の福祉ニーズに応え、県域における地域福祉の推進機関として、県民の信頼の下、事業を推進していくためには、事業の進捗管理やチェック体制の徹底を図るほか、多様化する福祉の担い手や関係機関との連携や役割分担を進めるなど、効果的かつ効率的な組織運営をお願いしたい。

2 予算執行と財務管理について

監査法人による外部監査により、適正な会計処理等に努めているところであるが、なお事業執行のあり方等について一部改善すべき点が見受けられる。今後、会員からの会費及び公金を財源としていることを鑑み、効果的に執行するとともに、一層の透明な事業執行に取り組まねばならない。

平成22年5月14日

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

監事 都築 融光

監事 高橋 孝久

監事 高橋 政勝

独立監査人の監査報告書

平成22年5月12日

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

会長 林 英樹 殿

監査法人 エムエムピージー・エーマック

代表社員 業務執行社員

公認会計士 川原文貴 公認会計士 高倉 隆

当監査法人は、社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会の平成21年会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の計算書類、すなわち、資金収支計算書（資金収支決算内訳表を含む）、事業活動収支計算書（事業活動収支内訳表を含む）、貸借対照表及び財産目録について監査を行った。この計算書類の作成責任は理事者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から計算書類に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる社会福祉法人会計の基準に準拠して、社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会の平成21年会計年度の収支及び事業活動の状況並びに同会計年度末日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

県社協新役員・評議員のご紹介

(任期：役員は5月12日から、評議員は5月10日から2年間)

会長 林英樹(学識経験者)

副会長 篠原正治(横浜長寿会)、小松輝男(県民児協)、藤原尉夫(横須賀市社協)

常務理事 宍戸和夫(学識経験者)

【理事】水島貞(つちや社会福祉会)、山川保(白十字会林間学校、飯島克巳(多摩川あゆ工房)、長谷川正義(横浜市民児協)、萩原保夫(川崎市民児協)、相川真慶(相模原市民児協)、石原昌信(県保護司会連合会)、大津幸雄(横浜市社協地区社協部会)、富田順人(川崎市社協地区社協部会)、吉本一夫(相模原市社協)、石橋吉章(県心身障害児者父母の会連盟)、府川セツ(県ボランティア連絡協議会)、小西正典(県労働者福祉協議会)、中島栄一(県保健福祉局)、鈴木和夫(県社協)

【監事】都築融光(上府中保育園)、高橋政勝(県民児協)、高橋孝久(学識経験者)

【評議員】

◆第1種(経営者部会) 加茂坂幸昌(恩賜財団神奈川県同胞援護会)、深瀬亮一(母子育成会)、富田英雄(つきかけ会)、高橋照比古(照陽会)、小倉徹(松緑会)、坂本堯則(たちばな福祉会) 【施設部会】宮下慧子(カサ・デ・サンタマリア)、川瀬和(藤沢養護老人ホーム)、工藤廣雄(横浜市ホームレス自立支援施設はまかせ)、岸川洋治(田浦地域福祉センター)、安藤浩己(星谷学園)、菅原茂樹(総合病院湘南病院) 【民生委員児童委員部会】金田和子、鈴木立也、内山恭宏(以上、県民児協)、大越由美子、長瀬潔(以上、横浜市民児協)、稲田次男、齊藤喜信(以上、川崎市民児協)、河本一子、山口一雄(以上、相模原市民児協) 【保護司部会】山口宇宙、酒井實、

山口信郎(以上、県保護司会連合会) 【市町村社協部会】柳川莊一郎(横浜市社協地区社協部会)、岡本岡一(川崎市社協地区社協部会)、細谷昇(相模原市社協)、小川雅彦(平塚市社協)、酒匂守(小田原市社協)、井上昇(厚木市社協)、阿部秀和(海老名市社協)、山本哲雄(松田町社協)

◆第2種(連絡会) 岸上武志(県腎友会)、戸井田愛子(県身体障害者連合会)、高原文子(県精神障害者家族会連合会)、井上勇(県老人クラブ連合会)、嶋村敬子(県里親会)、小泉八重子(県社会福祉士会)、相馬宣正(県保育会)、新井通子(県ホームヘルプ協会)

◆第3種(連絡会) 石井邦夫(神奈川県厚生文化事業団)、渡邊史朗(県病院協会)、近藤正樹(県医師会)、加藤久幸(県薬剤師会)、鴨志田義功(県歯科医師会)、岩崎和男(県商工会議所連合会)

◆第4種(関係行政機関・学識経験者) 市野澤国冠(県保健福祉局地域保健福祉部地域保健福祉課)、立花正人(横浜市健康福祉局)、菊地義雄(川崎市健康福祉局)、井上耕二(相模原市健康福祉局)、山本雄太郎(県市長会)、栗原匡賢(県町村会)、大谷義輝(県共同募金会)

役員会等の動き

◇理事会 4月14日(水) ①正会員の入会申込 ②任期満了に伴う理事の推薦 ③任期満了に伴う監事の推薦 ④任期満了に伴う顧問の選任 ⑤任期満了に伴う評議員の選任 ⑥任期満了に伴う各種委員等委員の選任、5月12日(水) ①任期満了に伴う正副会長の選任 ②正会員の入会申込 ③事業外部評価委員会委員の選任 ④重点項目別推進委員会委員の選任、5月19日(水) ①平成21年度県社協事業報告並びに収入支出決算報告(案)、②平成22年度一般会計補正予算(案)

◇監事会 5月14日(金)

◇評議員会 5月10日(月) ①任期満了に伴う理事の選任 ②任期満了に伴う監事の選任、5月26日(水) ①平成21年度事業報告並びに収入支出決算報告(案)

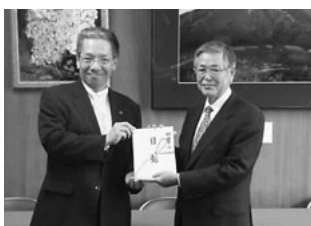
新会員紹介

【経営者部会】(福)慶泉会、(福)地域精神保健福祉会 【施設部会】介護老人保健施設相模大野、特別養護老人ホームわかたけ青葉、リエゾン笠間、さくらい保育園、障害者福祉サービス事業所しらはた、横須賀市立北下浦老人デイサービスセンター、すみれ保育園

寄附金品ありがたかったです

【一般寄附金】▽ジョンソン(株)▽協隆志 【交通遺児援護基金】▽大正琴サークル湖陽会 【としび基金】▽大文字荘▽板垣英和▽菅井良幸▽としびショップ保健福祉大学▽(株)CFSコーポレーション▽スリーエフランドマークプラザ店▽大正琴サークル湖陽会▽神奈川県東京事務所▽(社)神奈川県宅地建物取引業協会▽中村浴場 (計三、九〇六、二四八円)

【寄附物品】▽神奈川県定年問題研究会▽横浜市立矢上小学校 (敬称略)



ともしび基金寄附金の目録を手渡す、(株)CFSコーポレーション 石田代表取締役社長(左)と本会会長

地域福祉(ともしび)推進助成金申請受付中!

15万円以下 12月末までの毎月(随時受付)

16万円以上 (限度額あり) 10月末迄

本会ともしび運動推進担当 ☎045-312-1121(代)

一社会福祉施設の設計監理一

株式会社 安江設計研究所
YASUE & ASSOCIATES Inc

東京都港区高輪 2-19-17-808

Tel 03(3449)1771(代) / Fax 03(3449)1772

E-Mail yasue-a@nifty.com

FFAX 03(3449)1772

新築・増築・改修等お気軽にご相談ください

● 田圃の事ならおまかせください ●

お気軽に相談ください!

株式会社 あんざい

横浜市港南区下永谷 3-24-29
TEL 045-822-8497
FAX 045-824-1303
mail: anzai@p-anzai.jp



―IT支援からまなぶ・つながる・ひろがる

「ネットサロンKILLC」(平塚市)

今春、平塚に新しい形の「ネットサロンKILLC」がオープンしました。

インターネットカフェをイメージした店内は、チョコレート色のテーブルとカウンター、真っ白な漆喰の壁がマッチして、明るく落ち着いた空間を作り出しています。座席は全部で十五席、カウンターにはパソコン五台が置かれ、インターネットを楽しみながら、こだわりのコーヒー(二百五十円)などのドリンクとともに、近隣の福祉施設「工房絵」から入荷する焼きたての菓子・惣菜パン(九十円)をいただくことができます。

「ネットサロンKILLC」(平塚市)

ショップを運営している(N)神奈川県障害者自立生活支援センター(愛称KILLC)は、ピア・カウンセリングや介助者の養成などを行い、障害当事者の立場から、自立生活の総合的な支援に取り組ん

でいます。平成十七年度からは、本会の障害者等IT活用推進モデル事業として、ITの地域拠点「パソコンひろば平塚」を展開してきました。

「コミュニケーションツールとしてのIT支援を受けて、学んだことを生かし、今度は自分が他の人に教えてみたいという仲間も増えてきました。その経験と、『ともに生きる福祉社会づくり』の象徴である「ネットサロンKILLC」のつぎ、新しい「ネットサロンKILLC」の形を発信していこうと思った」と話すのは、事務局長の鈴木治郎さん。



ネットサロンKILLCでは、パソコンひろば平塚を毎週火曜日に開催しています。

平塚市桃浜町2-36 ☎0463-35-2710
(平塚駅南口徒歩3分)

地域交流の場を目指して

営業は月曜日から金曜日までの朝十時から午後四時まで。五名のスタッフが交替で入り、二名の支援スタッフとともにショップを切り盛りしています。

仕事帰りに寄った特別支援学校の先生からは「このような働く場ができることはありがたい。職場実習でも協力を」と期待の声がありました。「顔見知りの人が何人か訪ねて来てくれたが、緊張でコーヒーを出す手が震えてしまった。早く慣れたい」とスタッフも頑張っています。

店長であり、ひろばの運営にも関わる美澤和巳さんは「普段パソコンに触れる機会が少ない主婦や近隣の高校生が気軽に立ち寄り、自治会等の会合で使ってもらえるようなショップにしていきたい。季節によって、店頭でかき氷や焼き団子等の販売もしてみたいと思う。少しでも地域に貢献する場になれば」と、人のつながりを育む場としての期待を力強く語ります。湘南の爽やかな風に乗って、ネットサロンKILLCの思いは、地域に広がっていきます。

「ネットサロンKILLC」(平塚市)

防火管理者の皆様へ

消防用設備等点検時には**無償**で点検推進指導員を派遣し防火管理者の立会を支援いたします。

住宅の地震被害 (執筆) 神奈川県温泉地学研究所 杉原英和次長

地面は揺れているだけなら被害は出ません。住宅や学校、ビル、交通機関が破壊されることによって、住民や生徒、勤務している人びとが死傷します。

1995年の阪神・淡路大震災では、実に死者の7～8割は建物倒壊による圧死・窒息死であったと言われています。木造住宅の倒壊は、住民の方を犠牲にするだけでなく、緊急交通の障害や防火性能の低下による火災延焼の原因にもなりました。



防火管理者は、消防用設備等の点検時に必ず立会って適正な点検が実施しているか確認しましょう。
消防設備の安心を保障します。



(財)神奈川県消防設備安全協会
TEL 045-201-1908